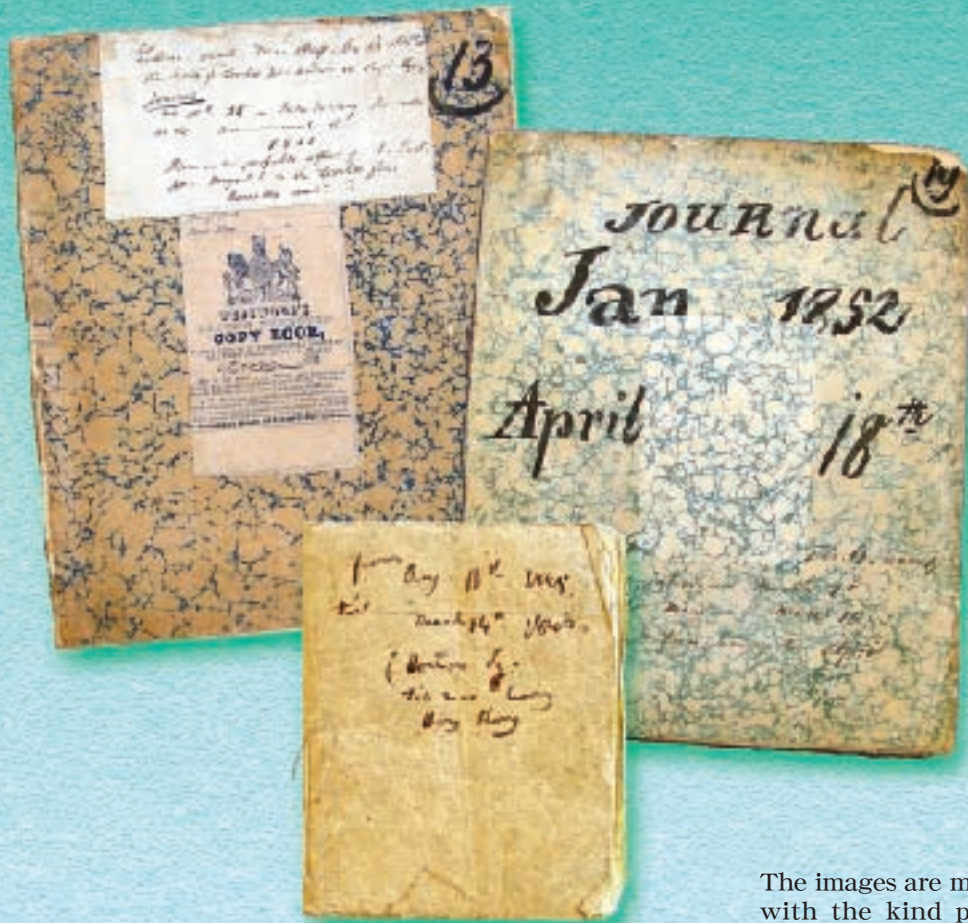


アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第34号

平成20年 2月28日発行



The images are made available with the kind permission of Mr. John Swearingen.

英国の宣教師バーナード・J・ベッテルハイム(B.J.Bettelheim 1811-1870年)は、1846年から1854年まで琉球に滞在し、伝道活動に従事しました。平成18年、その間の日記及び書簡計3点が、米国在住の弁護士ジョン・スーリングゲン氏から日本聖公会沖縄教区事務所に貸与され、約150年ぶりに沖縄に戻ってきました。

資料は、琉球へ向かう直前1845年の書簡綴り(手前)、琉球に滞在中の1849年12月30日から翌50年1月1日までの日記と書簡の綴り(奥)、1852年1月から4月の日記(中)の3点。うち前者2点はこれまで確認されていなかった新資料です。(7頁もご覧下さい)



教育庁文書保存管理室にて

この人にききました ～県職員の声

自分の作成した文書が公文書館に残るのは感動的
沖縄県教育庁総務課 比嘉麻紀子さん

力により、思ったより早く準備が整い、第一回目の引渡を終えることができました※。
※各課の文書担当者対象の引渡説明会が平成十八年十二月一日に行われ、それから三週間引渡協議対象文書の目録化が完了。引渡協議を経て、翌平成十九年三月に引渡実現。

良かったこと

共用書庫の適切な運用ができるようになった。公文書館へ文書を引き渡したため書架スペースに余裕ができ、各課からの文書引継がスムーズになりました。その結果、引継文書の量も増加するという善循環が始まっています。

平成十八年度、県教育庁から二百五十九箱の保存期間満了文書が公文書館へ引き渡されました。教育庁からの組織的な文書引渡は初めてです。教育庁の担当者である比嘉麻紀子さんにお話をうかがいました。

初の担当業務、文書管理

私は平成十七年度に採用され、初の公務が文書の担当でした。驚くほど多くの公文書が作成される中、文書整理の重要性を感じました。

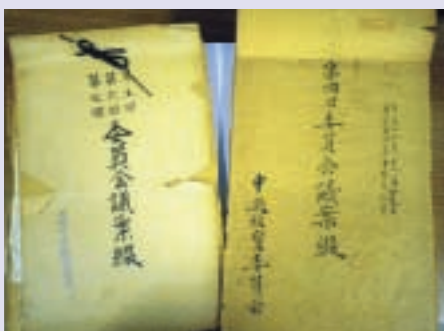
当時、総務課が管理する各課共用の文書保存管理室は、容量の限界が来ていました。各課は、総務課に引き継ぐべき文書も課内で保管していて、それが執務環境を悪化させていました。

今後どのように文書整理の体制を整えていったらよいのか模索していたところ、公文書館の受入担当の富永さんと出会い、何度も本庁に足を運んで手助けしていただきました。

文書を引き渡すまで

大変だったのは引渡データの作成です。保存管理室満杯の文書の中から、保存期間満了のものピックアップするのになかなか時間を費やしました。また、文書分類は各課の担当者にも協力していたきました。

このような組織的引渡の経験がなくて、不安も大きく、どのようにまとめよいか、私もとにかく試行錯誤でした。それでも公文書館や各課担当者のご協



引渡された「教育委員会会議録」

コンで公文書館ホームページの引渡文書目録を検索したほうがよほど早いです。
さらに、歴史的な文書を公文書館に引き渡すことで県民の役に立てたという公務員としての喜びも感じました。

これから公文書館への引渡を検討する県機関の皆さんへ

公文書館へ引渡すことにより業務に支障が出るのでは、という不安もあるでしょうが、公文書館と相談しながら、状況に応じたベストの方法を見つけることが可能だと思います。なによりも行政上のメリットがたくさんあります。

行政委員会には、知事部局のよう大きな文書保存管理室はありません。保存期間満了文書を、公文書館に引き渡せば紛失の恐れはありませんし、専門員が文書の評価選別をするため、誤った廃棄への不安から不要の文書を残し続けることもありません。公文書館に任せれば、業務の合理化を図り、執務環境を確保し、それを公務能率の向上へとつなげていくことができます。

公文書の利用までが行政のサービス

歴史的価値のある公文書は県の財産であり、また、県民の共有財産でもあります。
責任を持って文書を保存し、公文書館へ引き渡すことによつて、広く県民に利用されるまでが、行政のサービスと言っても

過言ではないと思います。
私もこの仕事を担当するまでは気づきませんでした。倉庫に眠っていた公文書が公文書館で生き返って、県民に利用されていることは事実です。だからこそ県民に対する行政の役割、責任を果たしたことになるのだと思います。

自分の作成した文書が公文書館に残り、歴史的価値のある資料として何十年、何百年も後の世に伝えられていくとしたら、それは、行政マン(ウーマン)としてとても感動的なことでしょう。これは私の個人的な感想ですが、そう思うと仕事へのモチベーションが上がるのではないのでしょうか。

体系確立へのステップとして

私がしてきたことは、階段を一段昇ったか、あるいはその手前くらいのものかもしれませぬ。でも、これを一つのステップとして、保存から引渡までの一連の流れが確立されていけば、うれしく思います。

今回初めて組織的に公文書館へ引き渡すことができたのは、各課のご協力とともに、公文書館の方が、実に丁寧な説明を何度もなさってくれたおかげです。公文書館の方々、関係者の皆様には感謝しています。

インタビュー

平成二十年一月十日(木)

午後三時、
県庁十三階第一会議室にて

アーカイブズ フラッシュ

公文書館にはいろいろな方がやってきます。老人会や婦人会、自治会の団体見学、他県からの行政視察、大学や研究機関の関係者、中高の総合学習や、修学旅行の生徒さん、海外からのお客様まで…
そんな訪問者の横顔を一部ご紹介します。

●沖縄国際大学 南島歴史ゼミのみなさんが研究実習

平成十九年七月から八月にかけて、田名真之先生ほか約二十人の大学生のみなさんが、研究実習に通ってこられました。ほとんどの学生のみなさんは、公文書館の閲覧室で資料検索・閲覧請求するのが初めての経験とのこと。先生の指導のもとに、それぞれのテーマで、公文書を熱心に読み込んでいました。これからも公文書館を活用して下さいね。



実習最後の日に

●ブラジルからも…

平成十九年十一月八日、ブラジル・サンパウロ州サンピセンテ市職員のマウロ・セルジオ・シウベiraさんが、那覇市職員とともに公文書館を訪問しました。

サンピセンテ市と那覇市は一九七八年から姉妹都市提携を結んでおり、シウベiraさんは交流事業の一環として那覇市に長期滞在しています。地元では社会科学の先生を務めるシウベiraさんですが、大学では記録管理学を学んだこともあるだけに、県文書の評価選別などについても高い関心をお持ちでした。



館長室にて。前列中央がシウベiraさん

●南風原町立北丘小学校のみなさん

平成十九年十二月六日、北丘小学校三年生十六人が、総合学習のため公文書館を訪れました。

「南風原町大好き」というテーマで町内の施設を見学しているというみなさんは、公文書館でも元気がいっぱい、「資料は何件くらいあるのですか?」「映像資料はどれくらいありますか?」「公文書館の仕事はどんな点がおもしろいですか?」など、たくさん質問が飛び出しました。



質問する北丘小の生徒さん

宮古支庁で、公文書館業務説明会と 保管文書調査を実施

公文書等は、行政活動の過程で作成され、一定期間保管された後に現用文書としての役目を終え、廃棄されます。

公文書館は、それらの公文書等の中から、歴史的に重要なものを選別、保存し、県民の利用に供しています。行政の記録センターとして、沖縄県の行政の足跡を残す場でもあります。沖縄県の公文書等を適切に収集することが、公文書館の重要な業務です。

公文書館では、本庁部局だけでなく、出先機関や各種行政委員会に対しても、重要な公文書等を引き渡すよう働きかけています。

宮古支庁の文書については、これまでも引渡の実績があります。宮古における県行政の足どりや、地域性を将来に伝えるような歴史的公文書を適切に残すことが重要であり、さらに支庁文書の公文書館への引渡を促進するために、平成十九年十一月二十七日から同三十日にかけて、宮古支庁で公文書館業務説明会及び各課室の保管文書調査を行いました。三日間で七課・所に出向き

したが、文書主管課(公文書の管理を担当する課)である宮古支庁総務観光振興課の丁寧な事前準備のおかげで、各課・室とも快く受け入れてくださいました。また、文書保管状況についての詳しいお話を伺うことができました。

今後は八重山支庁の保管文書調査にも取り組みます。



宮古支庁での公文書館業務説明会

【おこわり】

「この人にききました」の「新城鐵太郎さん」第二回は、次号に掲載します。

特集

映像資料紹介

公文書館は、開館以来、沖縄に関する映像資料を積極的に収集してきました。戦前の映像をはじめ、沖縄戦関連や戦後復興の様子を記録した映像などがあります。また、沖縄の産業を育成する目的で制作したもので観光用のビデオ、各界で活躍する沖縄女性のインタビューや個人・各団体が制作した様々な映像は、沖縄の歴史を理解する上で役に立つことでしょう。

映像資料と併せ、その時代の写真や関連する文献等も参考にしながら、総合学習の教材として、あるいは字誌等の編集に活用するために、沖縄の歴史を紐解いてみてはいかがでしょうか！懐かしい記憶が映像で甦ってきます。（【】の数字は公文書館資料コードまたは写真番号です。）

戦前の沖縄

沖縄	大阪毎日新聞社 東京日日新聞社 1940年	南進策を推進する国策短編映画。大日本帝国の一部としての沖縄を強調した内容。県庁、首里、崇元寺、鉄道駅、中城、万座毛、今帰仁城、恩納岳など戦前の沖縄の風景や、歿髻(カタカシラ。昔の男性の髪型)や針突(ハジチ。女性の手に施した入墨)などの風習が見られる。(14分)【0000015498】
南の島 琉球	大阪毎日新聞社 1940年頃	首里城正殿や浦添ようどれ(王陵)などの建造物のほか、機織りや壺屋焼、那覇港、市場、糸満などの町並み、ハブの生態や製糖の様子と、小編ながら様々な内容が織り込まれている。無声 (11分)【0000015501】
海の民 沖縄島物語	東亜発声映画 1942年	大東亜共栄圏をうたい、国家総動員態勢づくりを意図して制作された短編映画。拓南訓練所の唱和からは、皇民化教育の一端がうかがえる。その他に糸満の勇壮な追い込み漁や爬龍船競漕(ハーリー)、「首里古城」を歌う県立第二高女生徒、移民の父・当山久三の銅像も。(28分)【0000015507】

沖縄戦関係

沖縄戦 No.2 (日本語字幕付)	米国海兵隊撮影部 1945年	第3水陸両用部隊、海兵隊第1部隊・第6部隊のカメラマンが撮影。銃撃や手榴弾投込、火炎放射器で集落を焼く様子、シュガーローフの攻防戦など。(30分)【0000033377】
来沖中の マッカーサー元帥	米国陸軍航空隊 1945年	GHQ総司令官マッカーサーが、1945年8月28日、専用機バターン号で伊江島に降り立った時の映像。8月29日の読谷飛行場での記録も。無声 (9分)【0000012566】
降伏文書調印式 嘉手納基地	米国陸軍航空隊 1945年	1945年9月7日に行われた嘉手納基地での降伏調印式の前日、飛行機を降りてくる日本側と米側が挨拶する様子、調印式の署名の様子を記録した映像。無声(7分)【0000012569】
沖縄戦 未来への 証言(普及版)	沖縄戦記録フィルム 17フィート運動の会 1990年	米国国立公文書館から入手した映像をもとに、沖縄の戦跡を紹介しながら平和への願いと反戦を訴える。昭和60年度の県民遺骨収集や慰霊祭、不発弾処理の様子も。(32分)【T00001256B】
もうひとつの 沖縄戦記	(株)Nansei 2002年	沖縄戦体験者の手記の朗読で構成。対馬丸や10、10空襲、米軍の慶良間・本島上陸、朝鮮人軍夫、南部のガマ、宮古・八重山のマリア、慰霊塔、平和の礎など。(31分)【0000060970】



シュガーローフ(現在のおもろまち付近) 米海兵隊写真資料【92-13-1】



降伏調印式写真【0000024808】

高等弁務官の視察

ブース高等弁務官 各地視察 他	米国民政府広報局 1960年頃	具志川村役場・農連第二製糖の視察、川平朝申(結核予防会事務局長)との面会など。アイゼンハワー大統領秘書官ハガチーと兼次佐一那覇市長の懇談や、ア大統領が来島し、デモ隊との衝突などの映像がある。無声 (8分)【0000029296】
キャラウェイ高等 弁務官八重山訪問	米国民政府広報局 1961年	石垣島、与那国島を訪問し住民と歓談する様子や、歓迎の人波、八重山支庁訪問、石垣市内空撮などを記録。無声 (15分)【0000010085】
ワトソン高等弁務 官先島初の訪問	米国民政府広報局 1964年	ワトソン弁務官夫妻とワーナー民政官を歓迎する空港でのセレモニー、両地方庁、琉米文化会館訪問のほか、周辺離島へも足を伸ばした様子が記録されている。無声 (14分)【0000036815】



ブース高等弁務官 USCAR 広報局写真資料【42-12-4】



キャラウェイ高等弁務官 琉球政府関係写真資料【048032】



ワトソン高等弁務官 琉球政府関係写真資料【012607】

国体関係

若夏の躍動 復帰記念沖縄特 別国体の記録	沖縄県 日本映画新社 1973年	日本復帰記念事業として行われた若夏国体の記録。波照間島で採火した炬火が石垣、西表、沖縄本島を廻るのに合わせて、地域の風物や戦後の苦難の歩みを重ね合わせる。華やかな開会式や各競技の熱戦、閉会式など。(59分)【0000015498】
海邦国体 第42回 国民体育大会	沖縄県実行委員会 日本体育協会 読売映画社 1987年	復帰15年目を迎えた沖縄で海邦国体が開催。前半は国体の歩みや沖縄の歴史と暮らし、夏季大会の様子など。後半は炬火リレー、開会式、各地で行われた23種目の競技の熱戦の模様や閉会式までを記録。(60分)【0000013595】

空手関係

嗚(わら)われた 空手	粕谷並天坊 1930年	空手が護身術としていかに重要かを強調する、慶応空手研究会出演によるミニドラマ。日本本土での空手普及用のフィルムと思われる。無声(13分)【0000018737】
慶應義塾大学 空手部合宿風景	粕谷並天坊 1932年	慶応空手研究会の夏季合宿で、会旗掲揚に始まる合宿所での一日を記録。村の人たちとの交流なども。無声(15分)【0000018739】
沖縄空手道古武道 世界大会	大会実行委員会事務 局 2003年	平成15年8月、沖縄県立武道館で開かれた世界大会の記録。優勝者の演技を中心に、首里城で行われた県指定無形文化財保持者の奉納演武も紹介。(60分)【0000044428】



唐手術 錬鍛護身【T00014519B】

沖縄の産業

琉球の工芸 芭蕉布	米国民政府広報局 1970年	喜如嘉の芭蕉布作りの一連の流れを紹介する映像。藍染めや機織りなど、芭蕉布製品を作る婦人たちや、西部工芸展で金賞を受賞した平良敏子さんのインタビューもある。(14分)【0000017757】
壺屋焼	壺屋陶器事業共同 組合 シネマ沖縄 1983年	1682年に知花、宝口、湧田の3つの窯を統合して誕生した「壺屋」で、300年の伝統を持つ壺屋焼の歴史と技法を記録。戦前のヤチムン、戦後の復興を振り返り、その技法を紹介。(28分)【T00001554B】
泡盛 君知るや銘酒泡盛	沖縄県酒造協同組 合 シネマ沖縄 1986年	沖縄の銘酒泡盛の歴史と製造過程を解説。世界でも沖縄だけという「黒麹菌」とタイ米の融合から蒸留までがわかる。久高島正月のお祝いの様子なども見られる。(20分)【T00000635B】
琉球びんがた	琉球びんがた 事業協同組合 シネマ沖縄 1986年	首里の戦災と復興、組踊と紅型衣裳、知念工房、鎌倉芳太郎の型紙などから紅型の歴史を紐解き、製作工程も解説。玉城朝薫碑や、復興に尽した城間榮喜のインタビューも収録。(27分)【T00000637B】
琉球漆器	琉球漆器事業協同 組合 シネマ沖縄 1991年	伝統工芸品琉球漆器の技法を記録。王国時代の貝摺奉行文書も紹介。(26分)【0000015498】



「守礼の光」に紹介された沖縄の工芸



「沖縄の伝統工芸」
【G00006330B】

さまざまな視点で...

読売国際ニュース	(株)読売映画社 1995年	沖縄関連のニュース(1955年～1975年)19項目をまとめたもの。島ぐるみ土地闘争、首相来沖、集団就職、みどり丸遭難、返還協定調印、交換用日本円の現金輸送作戦、復帰の日、不発弾処理など。(70分)【T00022497B】
アクアポリス	三菱重工業(株) シュウ・タグチ・ プロダクションズ 1975年	昭和50年開催された沖縄国際海洋博覧会で、その目玉として設置された海上都市アクアポリスの映像。三菱重工広島造船所での建造から、会場である本部町での係留作業・公開までを追う、構造的な特徴や来場者の反応などを紹介。(25分)【0000072242】
アメリカちゃん ぶるー 復帰後の 沖縄の姿	石田穰一 1982年	石田穰一(ゆたかはじめ)氏撮影による自主制作映像。戦後の沖縄がアメリカ文化の影響を受けた様子を描く。金武のスナック、ロジャーズ百貨店、与那原大綱引きの外人たちなどの映像。(15分)【T00000577B】
沖縄 OKINAWA	沖縄県企画開発部 2002年	外国人向けの英語版沖縄ガイド。空港、ゆいレールなどの施設や、沖縄の歴史と自然を説明。沖縄サミットで平和の礎を訪れるクリントン米大統領の映像も。(12分)【0000058443】



屋良朝苗行政主席就任
琉球政府関係写真資料
【027340】

あ の 日 の 沖 縄



【米空軍コレクション 第二次世界大戦シリーズより 写真番号15-54-1】

1948年撮影。石川市(現うるま市)にあった東恩名博物館の庭で、水彩画を描く画家たち。米兵が記念品やみやげ物として買い取ることもありました。東恩納博物館は、1945年8月、米軍が民家を利用して沖縄の文物を展示したことに始まったもので、米兵に沖縄文化を教えることを主な目的としていました。奥に見える鐘は、那覇市首里の円覚寺にあった梵鐘。

平成19年11月1日、那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館しました。

戦後沖縄の博物館の歴史は、終戦直後に米軍が設置した東恩名博物館や、首里市立郷土博物館に始まります。これらの施設はその後の合併等を経て琉球政府立博物館となり、施政権返還後は沖縄県立博物館として親しまれてきました。当時の様子をしのぶ写真が、公文書館に保存されています。



【琉球政府関係写真資料より 写真番号020309】

1966年10月6日撮影。琉球政府立博物館の新館が那覇市首里大中町の尚家旧屋敷跡に開館しました。総工費58万ドル弱のうち、32万ドルを米軍が負担。この建物は沖縄県立博物館として、平成19年まで使用されていました。



【琉球政府関係写真資料より写真番号025339】

1967年1月20日撮影。日本政府文化財保護委員会主催「日本古美術展」が、博物館新館で開催されました。国宝7件、重要文化財22件等が展示され、一ヶ月で12万7千人が集まる盛況となりました。この展示室の風景も懐かしい歴史の一コマになりつつあります。

Q&A 閲覧室

閲覧室に寄せられた問い合わせとその回答を、レファレンス記録簿からいくつかご紹介いたします。

Q 沖縄県教育委員会に提出された「城跡保存修理事業報告書」を閲覧したいのですが、公文書館にありますか。

A 公文書館はこれまで主に知事部局からの文書受入を行ってきましたが、平成十八年度に教育委員会からの文書受入を開始しました。ただ検索した結果、現在、該当文書は確認できませんので、教育委員会の所管課までお問い合わせ下さい。その際、情報公開条例に基づいた手続きが必要ですので、沖縄県総務部総務私学課・行政情報センター(県庁二階)で開示申請を行って下さい。

Q 戦争で不明確になった土地の所有状況を把握するための作業を行う委員会があったときいていますか。委員名簿はありますか。

A 戦後行われた、「土地所有権認定事業」では市町村長から任命された調査委員(各市町村から五名、各字から十名)がその遂行にあたりました。しかし、残念ながら現時点では各委員の氏名を確認できる資料は見つかっていません。

Q 復帰前、出版物を発行する際、米国民政府に対して出版許可申請をしなければならなかったとききましたが、その申請書の様式などがありますか。

A 検索の結果、一九六四年の八重山地方庁文書及び一九五三年の対米国民政府復文書中に一簿冊ずつ確認できましたので、ご確認下さい。

Q 調査のため文書を閲覧したいのですが、ホームページ上で検索し二十冊ほど選びました。後日来館して閲覧しますので準備をお願いします。

A 公文書館では公文書等の閲覧をしていただく前に、文書に含まれる個人情報や著作権法における制限の有無について確認しています。申請後、確認作業が終了するまで場合によってはしばらくお待ちいただくことをご了承下さい。

今回のように事前に連絡をいただければ、来館前に確認作業をすすめておくこともできますので、資料コード、資料名などをお知らせ下さい。数量が多くなる場合は時間的余裕を持ってご連絡下さい。

また、個人情報保護や著作権法上、閲覧や複写制限が発生する場合もありますのでご了承下さい。

当館のホームページでは、資料所蔵の検索を利用者ご自身で行なうことができます。検索方法についてはお気軽にお問い合わせ下さい。

業務報告

「ベツテルハイムの日記」の補修

公文書館では、表紙でご紹介したベツテルハイムの日記及び書簡計三点の保存方法について、平成十八年度に日本聖公会沖縄教区事務所から相談を受け、複製物の提供を受ける条件で、簡易補修及びマイクロ撮影をすることになりました。

三点のうち、一八五四年の書簡綴りと、一八五二年の日記は、状態が悪くそのままではページをめくることができないほどでした。今回の作業では、もっぱら固着した紙片を剥離して元の部分に埋め戻し、必要な部分のみ裏打ちして紙の強度をもたせることにしました。

ベツテルハイムが英国から持ち込んだノート類に使われた紙は、どれも薄い洋紙で酸性劣化が見られます。また、カーボン紙を敷いて鉄筆で書いたのか、表側は非常に薄く裏面が濃いという特徴があり、必要最小限の手当てとはいえ慎重を要する難しい作業となりました。

ここでは三冊のうち、状態の最も悪かった「日記」の補修内容について紹介します。

資料名:

Journal(top copy), 1852, Jan.-Apr.
「1852年1月から4月の日記」

形態: ノート

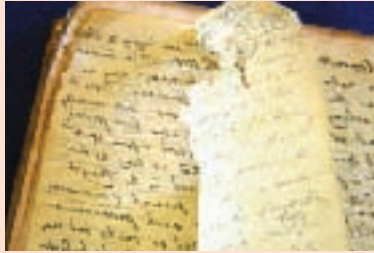
分量: 縦27.8cm×横22.8cm×厚み0.6cm

枚数:

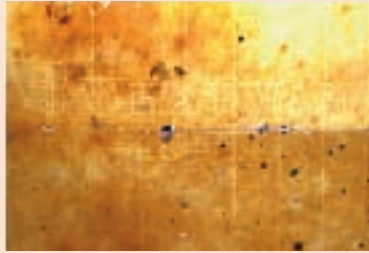
表紙、本紙56枚、(50枚一折+6枚一折)

付随資料:

- ①「献立表」(1冊)
- ②「王逸書の写し」
1枚



本紙どうしの固着



見返し紙のウォーターマーク



本紙と表紙の固着

A. 処置前の状況

マープリング文様を施した紙と見返し紙からなる表紙は、題箋が剥がれた痕跡があり、小口部分もすれて紙も黒ずみ紙力も低下していた。見返し側の紙は手漉きの洋紙で、光に翳すとウォーターマーク「WHAITMAN 1843」が現れ、抄紙された年号が窺えた。また、マープリング紙との接着面や本紙に貼り付いた部分に黒カビが多数付着していた。

本紙は、最初と最後の数枚が固着。全体に汚れや破れがあり、表側の文字は判読困難なほど褪色していた。所々に鉛筆やペンの書き込みがある。前半部分は若干光沢のある薄葉紙、後半部分は光沢のない薄葉紙。いずれも紙力が衰えたパルプ紙とみられる。



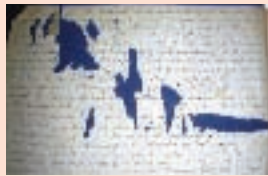
「献立表」(上)と挟まっていたページ(下)



挟まれていた。そして、献立表に付いた油染みが本紙にまで染み込んでカビを発生させていた。これらの資料は、日記に書き写された内容と、ろうや油染みの痕が一致することから、元々ろうで接着されていたこともわかった。

B. 処置内容

状態調査と写真撮影の後、ドライクリーニングし、くっついた紙片に少しづつ水を含ませて剥離した。次にノートを解体し、一枚ずつウェットクリーニングして破損や欠損部分を補修した。紙力が低下した紙は極薄い和紙(典具帖紙)で片面(文字が薄い面)に裏打ちした。剥離した紙片を元の場所に埋め込む作業に難渋したが、きれいに収めることができた。すでに失われた欠損部分は和紙で補填した後で裏打ちした。



本誌(上)と剥離した紙片(下)

表紙は、マープリング紙と見返し紙をスプリットし、クリーニング及び脱酸処理を施した。マープリング紙の欠損部分を和紙で埋め、薄い和紙(楮紙)で裏打ちした後、見返し紙と接着した。前半部分は元の糸が切れていたので新しい糸に付け替え、本紙

だけを綴じ直した後で表紙に和紙を使って貼りつけた。後半の六枚組は、元孔を使って表紙に直接綴じつけた。また、付随の古文書二点は、ウェットクリーニングと伸展後、ろうを貼り戻して元の位置に貼り合わせた。保存箱を作成して収納し、作業は完了した。



処置前(裏見返しのページ)



処置後

この資料は、後日マイクロ撮影し、原本は日本聖公会沖縄教区事務所に返却しました。現在、当館ではマイクロフィルムから複製物を作成し閲覧に供する準備しています。このような貴重な資料を補修する機会に恵まれたことに感謝します。

●利用案内

- ・開館時間 午前9時から午後5時まで
- ・休館日
毎週月曜日
国民の祝日である休日
慰霊の日
年末年始(12月29日～1月3日)
土日は国民の祝日および慰霊の日に該当しない限り、開館しておりますので、ご利用下さい。
- ・閲覧申請は4時30分までです。
- ・参考資料室の資料や、ビデオの利用は、閲覧申請の必要はありません。お気軽にご利用下さい。
- ・書庫の資料を閲覧する際には、利用証を作成して下さい。その際、運転免許証や学生証などの身分証明書を提示して下さいをお願いします。利用証は、発行から一年間有効です。
- ・閲覧室での筆記用具は鉛筆をご使用下さい。
- ・原則として資料の館外貸出はできません。閲覧および複写でご利用下さい。複写は所定の実費をお支払い下さい。
- ・鞆等はロッカーにお預け下さい。ロッカーは百円硬貨を入れて使用し、使用後は戻ってくるタイプのものです。

●交通案内



バスのごあんない

- ・那覇バス(株)・・・
1・2・3・5・15番線 新川営業所下車 1分
- ・東陽バス(株)・・・
91番線 新川バス停下車 1分

好評を博した宮古移動展

平成19年11月20日から30日まで、宮古島市総合博物館で、沖縄県公文書館移動展「映像と写真が語る宮古」(共催 宮古島市総合博物館・宮古島市・沖縄県宮古支庁)を開催しました。

宮古の歩みをもの語る出展資料は、写真157点、文書等123点、映像34点。観覧者は、戦前に撮影された民俗学的にも貴重な写真や、空中写真が示す景観や地形の変化、佐藤総理来島時などの歴史の一コマに映し出された身近な人々の姿に、興味深く見入っていました。また、米国から収集した沖縄戦関連資料や、戦後の宮古の行政記録も関心を集めました。

地元の新聞やテレビにも大きく取り上げられ、1953人の方に来場していただきました。宮古と公文書館の距離が縮まった11日間でした。



展示会場にて

カーツ博士講演会



講演するカーツ博士

平成19年7月24日、米国国立公文書館・記録管理庁(NARA)の記録サービス局長マイケル・J・カーツ博士が、「米国における政府公文書へのアクセスの保証～NARAの役割」をテーマに、公文書館講堂で講演なさいました。この講演会は在沖米国総領事館と公文書館の共催で行ったものです。

NARAで取り組んでいる機密情報開示プログラムの目的と実施状況、情報自由法の概要などについて興味深い論点が示されました。

政府公文書にアクセスする権利を保障することへの強い使命感が随所ににじみ出た、印象的な講演となりました。

当日の講演の様子は、公文書館ホームページ「ねっとOPA」のオンデマンド講演会でご覧になれます。